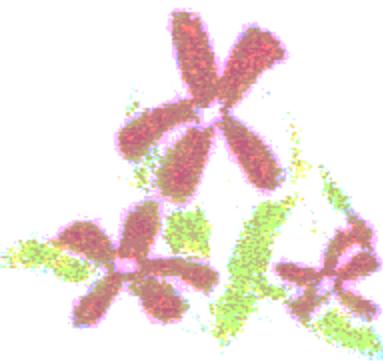


宮城県支部だより



平成14年5月18日発行

ごあいさつ

宮城県支部長 新田 双葉

新緑の青葉と色とりどりの花々が、春を待ち望んでいたように一斉に咲き誇り美しい季節を迎えるました。助産婦会の皆様にはお元気でお過ごしだったでしょうか。

お伺い致します。早いもので“新体制”で出発して以来、一年が経過しようとしております。執行部としましては、それは多忙な1年でした。まずは事業計画に基づいて実務を行うにも何もないという状況でありました。個人的な会員の器機をお借りして仕事をしてまいりました。何とか最少限度の事務機械や必要物品を確保したいと考え、手だけを探しておりましたところ、平成14年度子育て助成事業の募集を社会福祉医療事業団が行っておりましたので、早速申し込む手筈を整え、締め切りまで間に合うように書記の田村さんを中心に全力投球で事業計画の作成、必要資金の運用等を整えて応募し10月31日の締め切りをクリアしました。そしてようやくこの4月初め助成金が下りることになり本当に感謝で一杯です。力を合わせた結果の評価と思います。今後尚細部の打ち合わせをし乍ら軌道に乗せてゆきたいというおもいであります。

他に胎盤収集事業も仙台市互助会から引き継ぎまして、

1、ごあいさつ 支部長 新田双葉

2、会員活動紹介

- スズキ病院 ハ木橋 香津代
- 斎藤 ついみ
- 大崎ナーシング 大崎とみ子
- ナーシング助産院 笠松愛子

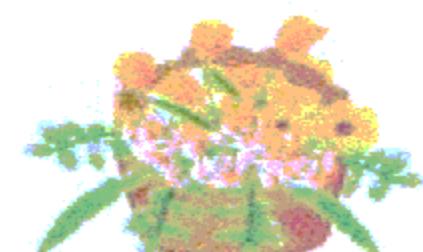
4月よりはじめることになりました。これも細部を煮つめてご報告させていただきます。

「国際助産師の日」のイベントの準備も概ねできあがり5月6日を、待つばかりというところです。

「看護の日」は5月12日ですが、5月10日に県民会館で記念業事が開催されます。看護協会に協力という形です。

全国総会を5月13、14日に控え、公私の振り分けで忙しく動いている現状です。ご要望ご意見がありましたら、どうぞご一報くださいますようにお願いします。

宮城県支部の総会も6月22日(土)こくろう会館を予定しております。どうぞ今からご予定を立ててください、是非大勢の参加を期待しております。皆で働き易い環境を作り助産師の存在を社会にアピールし現代に求められる知と技と愛を生かして共に前進していきましょう。次回からは各セクションからの“ご挨拶”と参りましょう。それぞれの立場でのご活躍をお祈りして終わりとします。



会員活動紹介

施設紹介

スズキ病院 ハ木橋 香津代

I. はじめに：スズキ病院は、県南に位置する岩沼市にある産婦人科単科の病院である。病床数は 103 床で、年間分娩数は約 1,100 件である。2 看護単位で運営されており、不妊症の専門病院という側面もある。スタッフは医師 9 名、助産師 39 名、看護師 20 名、看護助手 11 名である。当院の開設は昭和 61 年でその後平成 4 年に病院附属の助産学校を開設した特色ある病院である。我々は施設にあっても自立した主体的な活動を展開している。

II. 多彩な学級活動：少産少子の時代となり、益々お産は人生の中の大切な出来事となっている。産婦にとって肯定的な分娩体験となるようにする為には、おしきせではない個々のニーズにあった産前教育を自由に選ぶことが出来るように、より多くの選択肢を設けることが病院に求められている。それを見て当院では種々な学級活動を展開している。

1. 母親学級：4 回で 1 クール。特長としては妊婦体操ではなく、当院独自の妊婦のための創作ダンスを行っていること。（詳細はマタニティダンシングの項で述べる）妊婦の栄養のクラスで、0.8% に塩分計で調整したお味噌汁を試食していただき、「薄味」を体感させている。試食した妊婦からは、家庭の味と比較することで、より減塩がわかりやすくなつたと好評を得ている。2 回目のクラスで（20～23 週対象）胎動を感じるようになってから乳頭の手入れをするよう指導しているが、4 回目のクラスで（29～32 週対象）実際に一人一人の乳頭を拝見し、アセスメントし、よくできている方には、労って意欲が向上されるような係わり方をし、まだできていない方には、実際にオリーブ油を用い、汚れを取り目で見せることによって動機付けをしている。3 回目のクラス（24～27 週対象）では、お産の経過と、アクティブバースの理論を説明している。アップライトの体位をとることの意義、ランバースミケイラス反射と尾骨の動きにより骨産道を広げること。ローリングの理論は穴あきの袋とテニスボールを用いて説明している。その後、様々な体位を二人一組となり、練習して

いただいている。

2. マタニティダンシング（以下 MD と略す）；MD は音楽に合わせて行う創作ダンスである。内容はストレッチ・ウォーキング、妊婦体操の動きから構成されている。楽しく踊っているうちに必要な運動を得られ、毎回 20 名程の参加がある。



マタニティーヨーガ

3. ヨーガ：動的で西洋的な MD に対し、東洋的ヨーガも開講している。こちらも毎回 25 名程の参加がある。参加者達は、心身共にリラックスできる事と瞑想する事でお産のイメージトレーニングができたので、とても役立ったと話している。

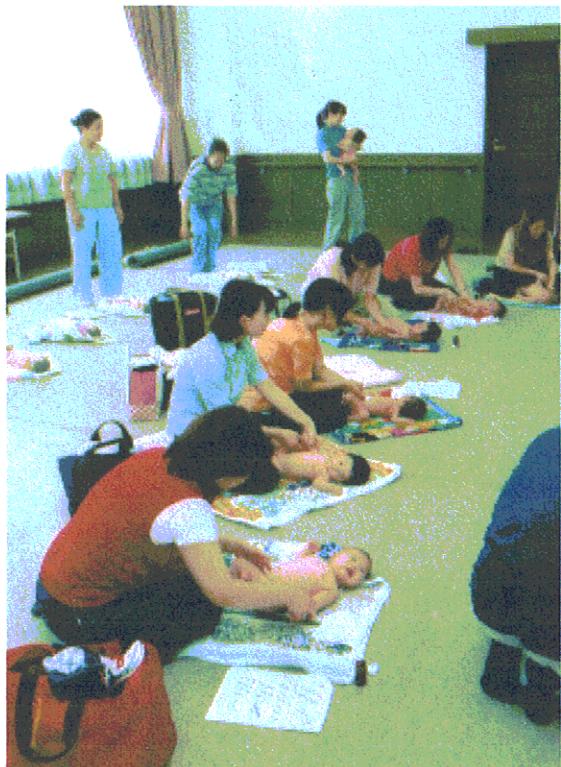
4. 妊婦を対象とした沐浴・育児・家族計画のクラス：以前から施設の欠点として短期間の入院中に詰め込み式にいろいろな指導が行われることが挙げられている。褥婦は分娩後、休む間もなく毎日指導を受け続けなければならない。そこで妊娠中の余裕のある時に、クラスを受けられるようにと開講した。

5. ベビーマッサージクラス：退院後から 3 ヶ月までの児を対象としている。リピーターが多く、毎回 20 名程度の参加がある。クラス後も 30 分～45 分間場所を開放し、お茶とクッキーのサービスを行っている。褥婦同士、自由に交流したり、育児相談を受けたりと、和やかな雰囲気でクラスがもたれている。褥婦の多くは、核家族で新生児を連れて外出できる場所がなく、孤立感や閉塞感を感じている。ゆっくりお茶を飲む時間もないという声を拾って、クラス後のティータイムを設けることになった。前述したヨーガ、MD 等も育児グループ作りのサポートの役割も果たしている。

6. その他のクラス：上記以外にも父親学級や夫立ち会い

分娩学級も行っている。

Ⅲ. 受講者による他者評価：当院では種々のクラスを開講するだけでなく、今年の2月から、①聞きやすさ、②内容を伝えるための工夫、③実技が具体的であったか、④心に残るメッセージの有無、⑤講師としての魅力の有無について、4段階の尺度を行い、アンケート方式で全ての助産師が評価を受けている。その結果は助産師本人によって集計され、評価のファイルに綴じられ、助産師に公開されている。自己研鑽せざるを得ない状況を（私自身も含めて）つくっている。



ベビーマッサージ

IV. 新生児訪問：当院の活動の大きな特徴に市から委託を受け行われている新生児訪問がある。今年の2月からは産後鬱を発見するためのエジンバラのスケールも導入されたところである。

VII. まとめ 以上当院における助産師の活動について述べてきた。今後も、現代社会において我々助産師に求められていることは何か、職責を果たすとはどんなことかと考えて活動していく所存である。

思い出

開業部 斎藤 ついみ

真冬の凍りつくような寒い朝、突然私のもとへ S 助産婦（非会員）から電話がきた。
『町内の某家から妻が産気付いたのですぐ往診してほしいと頼まれ産家にいるのですが、訪問時、子宮口 3cm 開大、少量の出血があった。間もなくお産になると思って居たのだが 3 時間も経つのに進行する気配がない。どうしてなのか判らない？ 斎藤さん一寸来て診察してくれない？』とのことだった。



異常産なら医者を呼ぶ筈なのに何故私に連絡してきたのか？と思いつながらも同業者からの依頼でもあるので訪問して見ることにし、急いで身支度をし 4km 程ある道を自転車で産家に向かった。某家の主人が途中まで迎えに来ていたので一緒に産婦宅に。早速案内されて産室に入った途端、産婦が「ゴホン、ゴホン」と咳をしたので『アレ‥？』と思った。S さんから経過を伺いながら診察をさせてもらった。1)児心音の消失 2)子宮体部の持続的収縮 3)子宮口 3cm 開大少量の出血あり 4)子宮底部に剥離部位らしき圧痛を触診 常位胎盤剥離を起こしていると直感した。これは大変。一時を争う事態になっていると思い、すぐ S 助産婦に告げ産家の了承を得、緊急入院の手続きを取り、帝切も考慮し肉親を数人同乗させ S 助産婦と共に産婦を A 産婦人科に送った。私は、産家の家族に詳しい説明をし後片付けをし自宅に戻った。数時間後 S 助産婦から「斎藤さんどうも有り難う。産科の先生から『この時点で早剥だと良く診断されたね。』と褒められました。お陰様で帝切もせず、お母さんだけは無事でした。本当に有り難う」という電話にほっとした思いで一杯でした。「異常産に遭遇した時こそ、大学病院で学んだ事が役立つ」と卒業時、篠田教授から送られた言葉を胸に“人命第一、危ない橋は渡らない”を信条に、夢中で過ごした半世紀、感無量です。

母子保健助産師は今！！

開業部 大崎 とみ子



母子保健と云う言葉は現在も新しく蘇る常に現実と向かい合いながら業務を続けております。少子化時代と云っても親と子、母と子には、基本的な子育ての趣旨は変わらないと思います。平成14年4月から日本で第3次教育改革を施行され、完全週休2日制になりますが、色々の声が聞かれる今日ですが、又、女性の社会進出等が云われます。

私達助産師として、明治～今まで女性の職業として子育てして参りましたが子供達は道外れな人間として育つませんでした。

幼児教育、学校教育云々を問う住民もありますが、私は矢張り家庭教育が第一だと思います。昔から子は親の後姿を見て育つ、と云い伝えられて来ました。このことは今も昔も変わりはないと思います。

どんなに経済的に恵まれた今日といえども心は貧乏になっているのではないかでしょうか。

第一母親としての学びの場が、今どこにありますでしょうか。



私達助産師は、婚前学級（青年学級）妊婦の母親学級としての学びの場を作つて参りました。私は現在小学生～高校生までの生徒さんと話し合うことがあります、小学校の生徒達は命誕生についての質問が多いです。中高生は妊娠と人工妊娠中絶と性病についての関心が高いです。私達母子保健のプロとして助産師は今、何を問われる時代でしょうか。自分達も現代にマッチした研修の必要を改めて感じさせられております。

今後とも会員の皆様と共に永遠に続く母子保健、助産師として大いに翔く時代です。

自己紹介

ナーシング助産院 笠松 愛子

仙台市若林区清水小路5-6 エステート五橋905
(022-266-7610)

多賀城市東田中 1-15-5
(022-368-1860)

eメール aiko.kasamatsu@mb5.seikyou.ne.jp

多賀城の自宅敷地内に助産院を建て今年の6月で、開業15年目を迎えます。

開業当初はお産を扱つておりましたがその後産褥入院に切りかえました。昨年2箇所開業（仙台市立病院近く）のため産褥入院をもやめることに致しました。

そして現在は母乳育児相談を中心に仕事をしています。業務形態を変えながらあつという間に15年が過ぎてしましました。

その他助産婦学校の非常勤講師及び看護学生・助産婦学生・中学生の職場体験なども引き受けております。

学生さん達に地域の中で開業助産婦の役割を知つてもらうことは、大切なことだと感じています。

市民センターのパパママ教室でお産や沐浴指導・母乳のお話などもしております。

仙台市内で定期的にM&M&P（複数の助産婦と母親と

歯科医)で協力してワークショップを開催しています。母乳相談で来院されるお母さん方は、ほとんど口コミで知っています。

こうして多くの人達の支えがあったからこそ、仕事を続けることが出来感謝しています。



一人ひとりを大切にすることが、私の仕事のモットーとするところです。

人生において恩人と思う人に出会うことがあります。助産婦の桶谷先生も恩人のひとりであります。桶谷先生に出会い学ぶことができたことが開業へのひとつのカづけとなりました。

今の時代保健指導で開業することは珍しくありませんが、戦後桶谷先生がお産を取り扱わない助産婦として開業したことは当時としては画期的だったことだと思います。

しかしお産が全盛だったころ、お産を取り扱わない助産婦は助産婦ではないからと、開業助産婦会から脱会させられたり、あんま業界から訴えられたり大変なおもいをしたようです。

今、多くの助産婦が母乳相談で開業することができるのもパイオニア的な存在だった先生のおかげだなと思っています。

研修期間中多くのことを学ぶことができました。

乳房手技は、単に乳房をマッサージするということではなく心と身体の手当てだということを知りました。

痛くなく手技をすることによって、硬くなっている乳房や、疲れた心をほぐし心地よさを与える癒していくことだと私は感じました。

手技をしながら、赤ちゃんのことや、お母さんの悩みを聞きながらドウラー的な役割があります。

暗かった顔が、明るく笑顔で帰られる姿を見ると仕事への生きがいを感じます。

また頑張るぞーと意欲が沸きます。

これからもお母さん方から多くのことを学び、元気をいただき楽しみながら仕事をしていきたいと思っています。

勉強会おしらせ

講義+実習で学ぶ!

桶谷式母乳育児援助実践講座

日時 10月26日(土)・27日(日)

場所 仙台(会場未定)

費用 24,000円(具体的な内容は、これからになります。)

問合せ先 日本総合研究所 電話06-6262-3215

編集後記

川崎での安楽死事件、ICUでの発砲事件や傷害事件など全く考えられなかったことがたくさん起きていて、日本中ここは絶対安全というところがなくなってきたているようです。政治家の先生方は自分の利益のことで頭がいっぱいのようだし・・・

さて、皆さん助産師という名称には慣れましたか?私は職業欄には助産師と書けても口からはついいつい助産婦とでてしまいます。求人広告や報道では助産師という名称が普通に使われていますよね。はやく慣れなくてはいけないのでしょうか。

今年度から発行した支部便りも無事に第3号を皆様の元にお届けすることができました。ご協力いただきました皆様本当にありがとうございました。

(松田)

支部だよりについての問合せ・投稿先***

〒981-3131 仙台市泉区七北田字東裏46-1(伊藤)

Tel 022-772-5960

Fax 022-772-5961

**日本助産婦会 宮城県支部 **

〒985-0822 宮城郡七ヶ浜町汐見台南1丁目1-5

支部長 新田 双葉

Tel Fax 022-357-6562

役員会便り NO. 3

1. 平成13年度第2回理事会報告

2月23日（土曜日）10時から、こくろう会館において、全理事18人中16人のご出席のもと開催された。議題は以下の通りである。

子育て・女性健康支援センターinみやぎについては、子育て支援基金へ補助金の申請書を作成中であることと、セクション毎に準備が進められていることが報告された。

また、平成14年度のイベント、研修会の日程については、以下の予定とされた。

今後の講習会予定

総会 6月22日（土）国労会館

県委託講習会 第1回

7月13日（土）サポートセンター

県委託講習会 第2回

10月26日（土）サポートセンター

宮城県支部会則見直しについては、会則検討委員代表の新田みづ子先生より、経過報告と共に、改正箇所の原案が提示され、理事会からの意見が出された。詳細は、会則検討委員からの添付資料をご覧下さい。

ご勤務が終わってお疲れの先生方に、数回に渡って検討会を開いて頂き、提起して頂きました。皆で感謝致したいと思います。

2. 平成13年度第9回役員会報告

3月30日13時～15時サポートセンターにおいて開催された。

この日は、看護協会の神文子先生のご臨席のもとに、『国際助産婦の日 記念イベント』の目的、内容につい

て話し合われた。詳細は、後日教育委員長の小山田先生作成のパンフレットを、関連団体、各会員に送付するのでご覧頂きたい。

5月6日、『国際助産師の日』に、多くの出会いがあることを役員一同祈っております。

最後になりますが、今年度は、機関紙の発行、みやぎ子育て・女性健康支援センターの設立準備など、新事業を進めて参りました。滞りなく新年度を迎えるのは、会員の皆様のご支援があつてのことと感謝致しております。

平成14年度も、情報開示された、会員と共に歩む宮城県支部をモットーに、事業を推進して参りたいと考えます。

ご支援、ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

追記

仙台市会員 木村美和子氏宅が一昨年火事に合い、自宅が全焼、ご自身、ご子息が火傷をおわれました。お見舞い申し上げます。

宮城県支部よりお見舞い金をお届けしました。

なお、過日本部からもお見舞い金が届けられました。

文責 書記 田村雪子

お願い

支部への届け出について

ご氏名、勤務ヶ所などの変更、入会、退会は、地区代表、施設代表の先生経由にて支部長まで変更届にてお届け下さい。会員名簿作成に大変な労力を要しております。また、会報がお届け出来なく、返送される方がおります。

よろしくお願い致します。